

衛生調查書

第十輯

(實地調查の二)

疾病篇

(本島人)

臺灣總督府警務衛生課

國立保健医療科学院蔵書



10012084

昭和六年刊行

衛生調查書

第十輯

(實地調查之二)

疾病篇

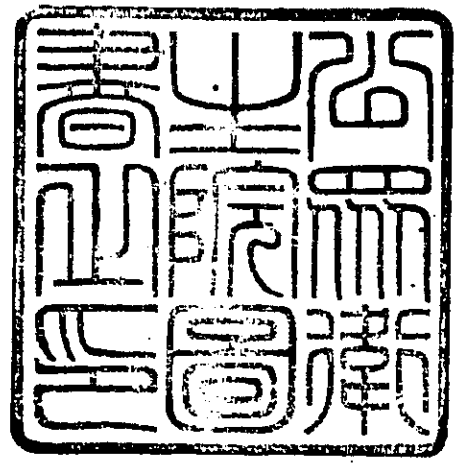
(本島人)

臺灣總督府警務衛生課

昭和六年刊行

昭和十四年十二月十八日
臺灣總督官房企畫部
寄贈
公衆衛生院

P
10
P2



緒 言

國家の健全なる發達を遂げむとするには、國民の保健を先驅とする。而かも衛生的事象には大に經濟的意義が含まれてゐる、之れ疾病罹患者は生産能力を有せずして、一般人に負擔を加ふるからである。於茲乎疾病關係を精査攷覈して、罹患率に影響を與ふる要因を探討し、之によつて民族衛生の刷新に善處せなければならぬ。

本篇は、本島に於ける衛生事情の不良部落に屬する考察であるが、疾病統計として唯一無二の資料であり、且つ改善施設の基調として、蓋し愆なきに庶幾からむ乎。

昭和六年二月

臺灣總督府警務局衛生課長 石井龍猪

凡 例

一 本篇は各州廳に於て施行したる、保健衛生實地調査中疾病に關する成績を編整したものであるから、之によつて全島の疾患の體系を窺知し得ると同時に、又地理的關係の歸趨も推知することが出来る。

一 本編は右調査の第一回乃至第五回の成績であつて、凡て不健康地區であり、又孰れも村落に屬する疾病調査であるから、大體農村民の疾病事情と見るべきものである。

一 記述の部は梗概を示すに止めたから、尙ほ詳細を考察せらるゝには、本篇統計の部を参照せられたい。

目次

第一 總説

第二 疾病率

- 1 體性別差異.....五
- 2 地理的差異.....六
- 3 年齢に依る差異.....七

第三 病類別觀察

- 1 脾腫.....九
- 2 マラリア.....二
- 3 貧血.....七
- 4 甲状腺腫.....六
- 5 肺結核.....三
- 6 花柳病.....三
- 7 其他疾患.....六

第四 地方別三大疾患

1 臺北州	四九
2 新竹州	五〇
3 臺中州	五〇
4 臺南州	五〇
5 高雄州	五〇
6 臺東廳	五一
7 花蓮港廳	五一
8 澎湖廳	五一

第五 寄生蟲

一 寄生蟲保卵率	五四
1 州廳別保卵率	五四
2 内地との比較	五五
二 體性別寄生蟲保卵者	五五
1 州廳別保卵率	五五
2 内地との比較	五五
三 年齢別寄生蟲保卵者	五七

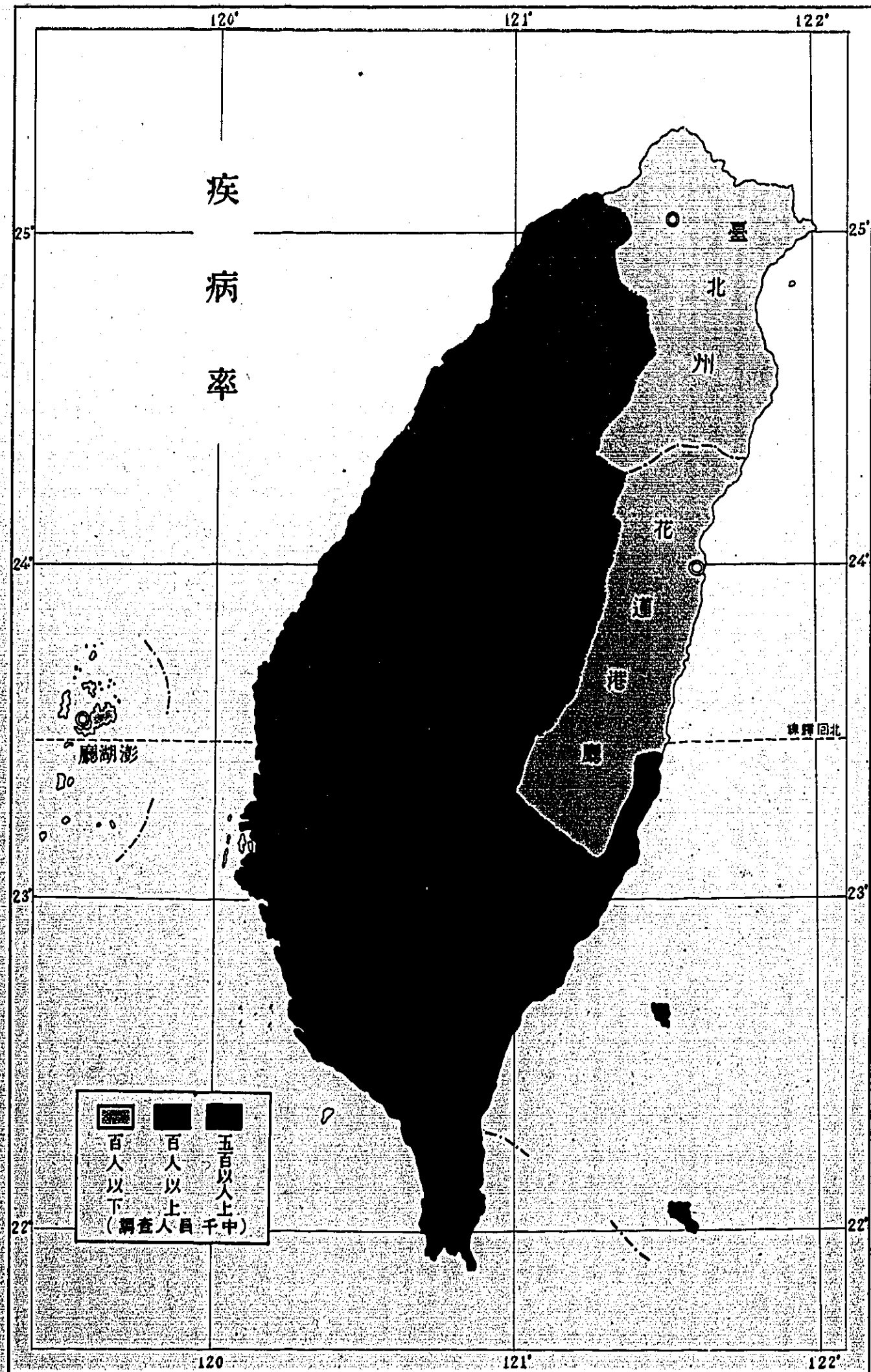
四 卵種別保卵率

1 州廳別保卵率	六九
2 内地との比較	七〇
四 卵種別保卵率	七〇
1 體性に依る卵種	七〇
2 州廳別と卵種	七一
3 内地との比較	七一
4 卵種別觀察	七二
イ 蛔 蟲	七二
ロ 鞭 蟲	七三
ハ 十二指腸蟲	七三
ニ 其の他の寄生蟲	七三
ホ 寄生蟲別人口	七三
五 寄生蟲保卵者と全検査人員との體格比較	七三
1 體重の比較	七三
2 身長の比較	七四
3 胸圍との比較	七四
六 トラホーム	七五

第六

トラホーム

第一圖



附 録

一 體性別……………

二 地方別……………

三 年齢別 附 内地との比較……………

四 學校衛生とトラホーム……………

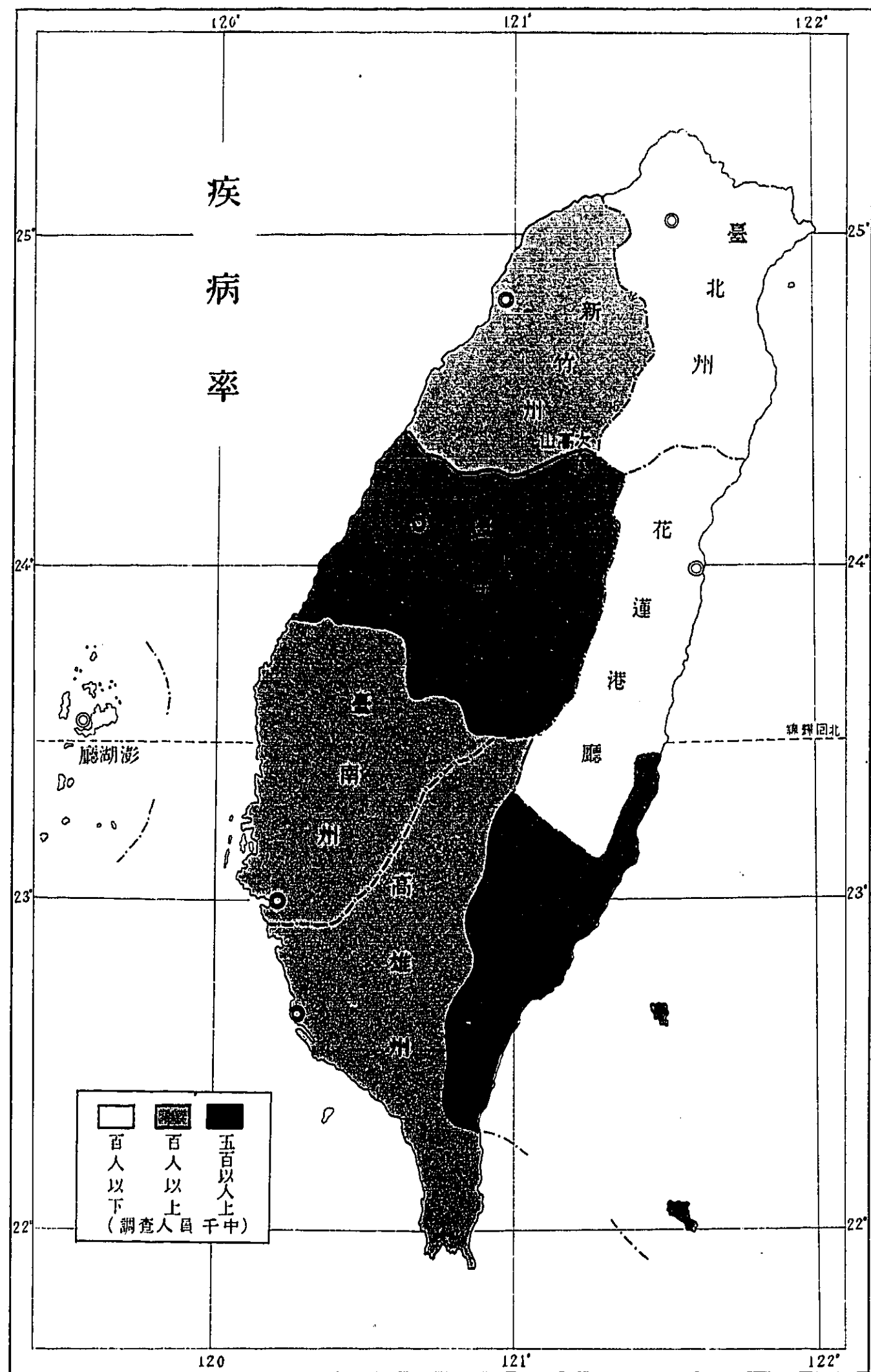
五 總括……………

參考資料……………

甲 官立醫院及び公醫の診療に依る疾病統計……………

乙 學校生徒兒童疾病別統計……………

丙 最近三箇年間に於ける死亡統計……………



附 録

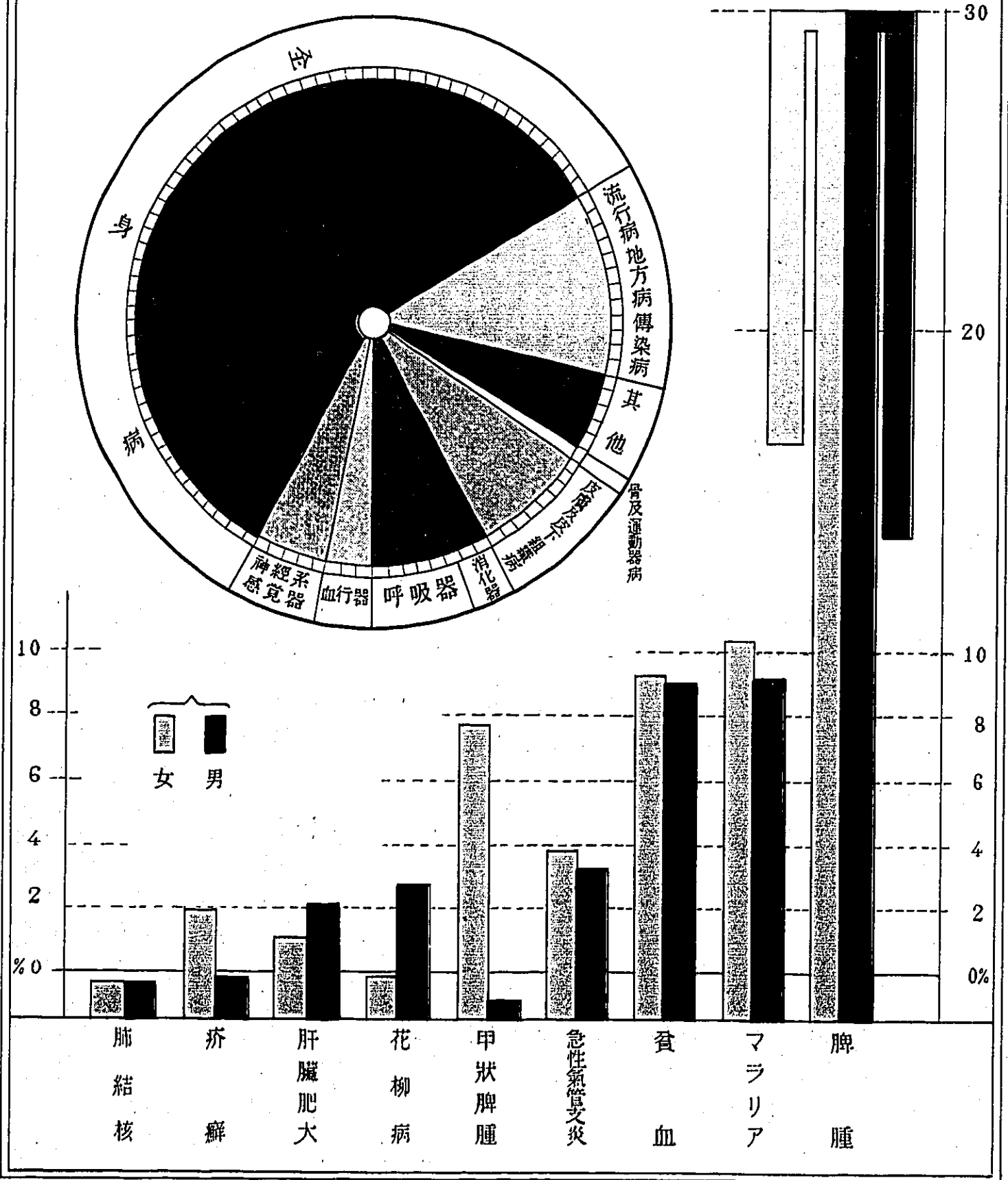
參考資料

一體性別	三
二 地方別	三
三年齡別 附内地との比較	四
四 學校衛生とトラホーム	五
五 總括	七
參 考 資 料	
甲 官立醫院及び公醫の診療に依る疾病統計	九
乙 學校生徒兒童疾病別統計	九
丙 最近三箇年間に於ける死亡統計	三

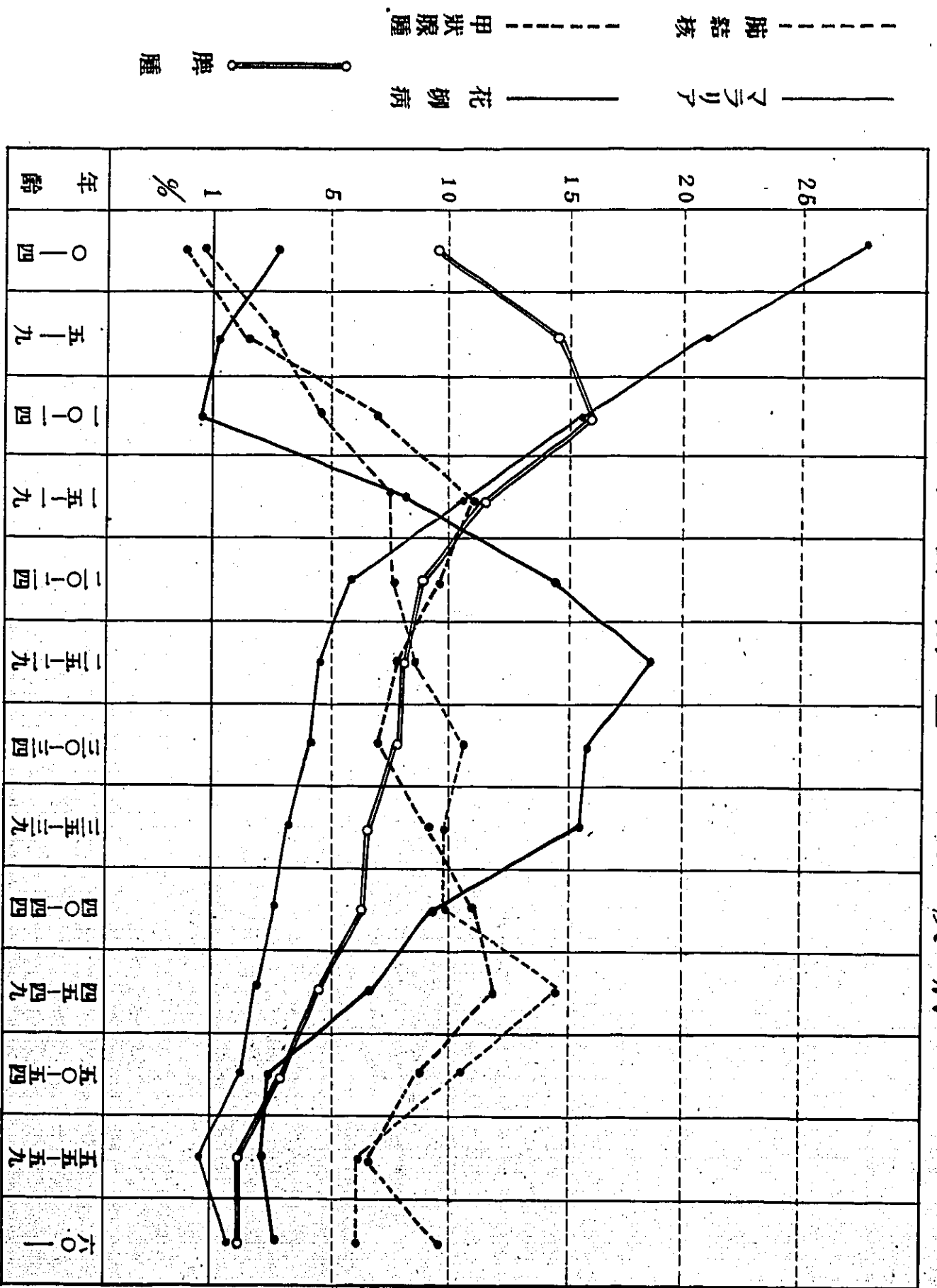
疾病別百分比

附 主なる病名

第二圖



年齢別主なる疾病



第三圖

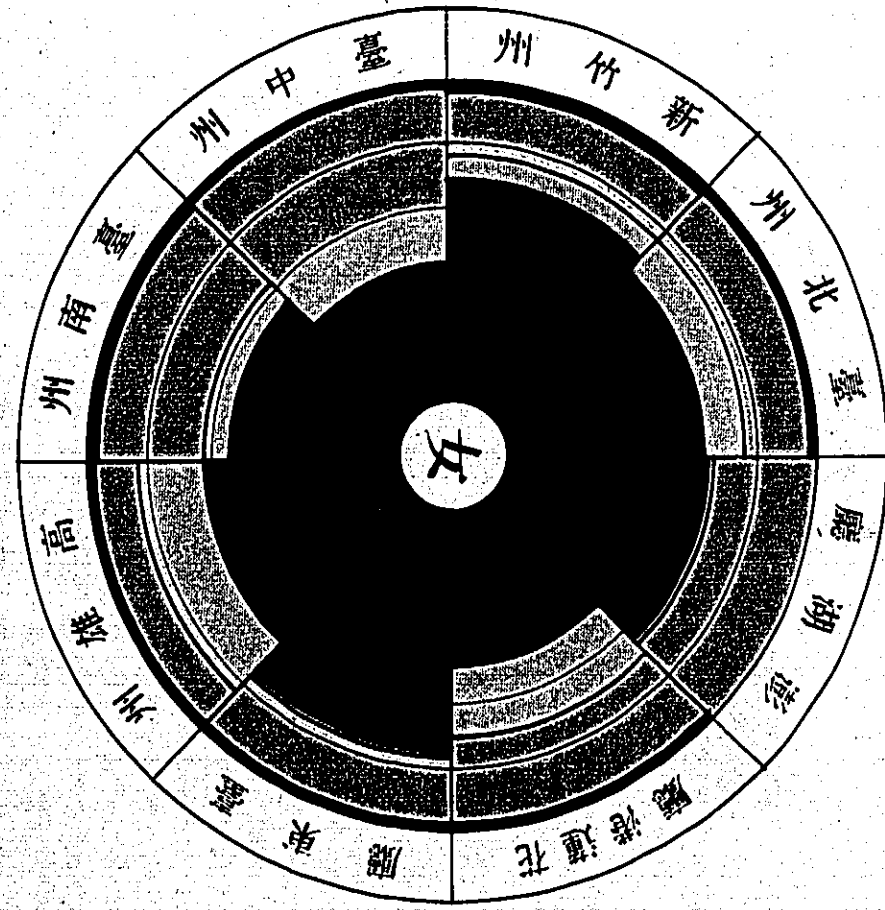
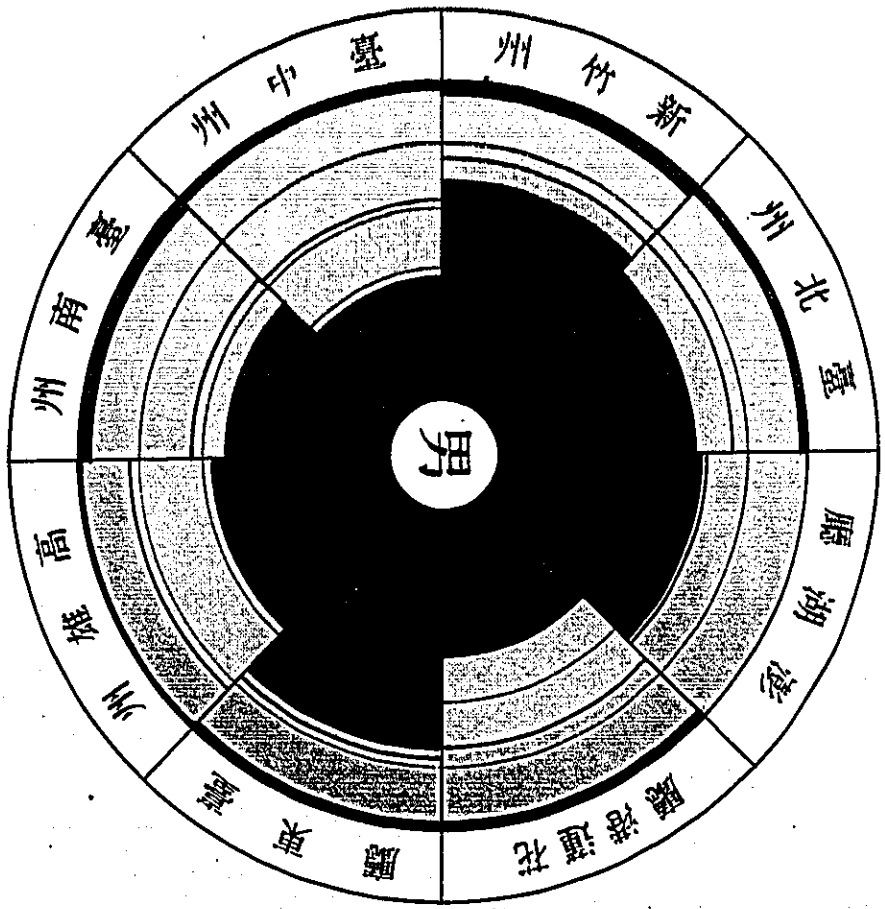
寄 生 蟲 (檢 查 人 員 百 中)

烟 蟲

十二指腸蟲

鞭 蟲

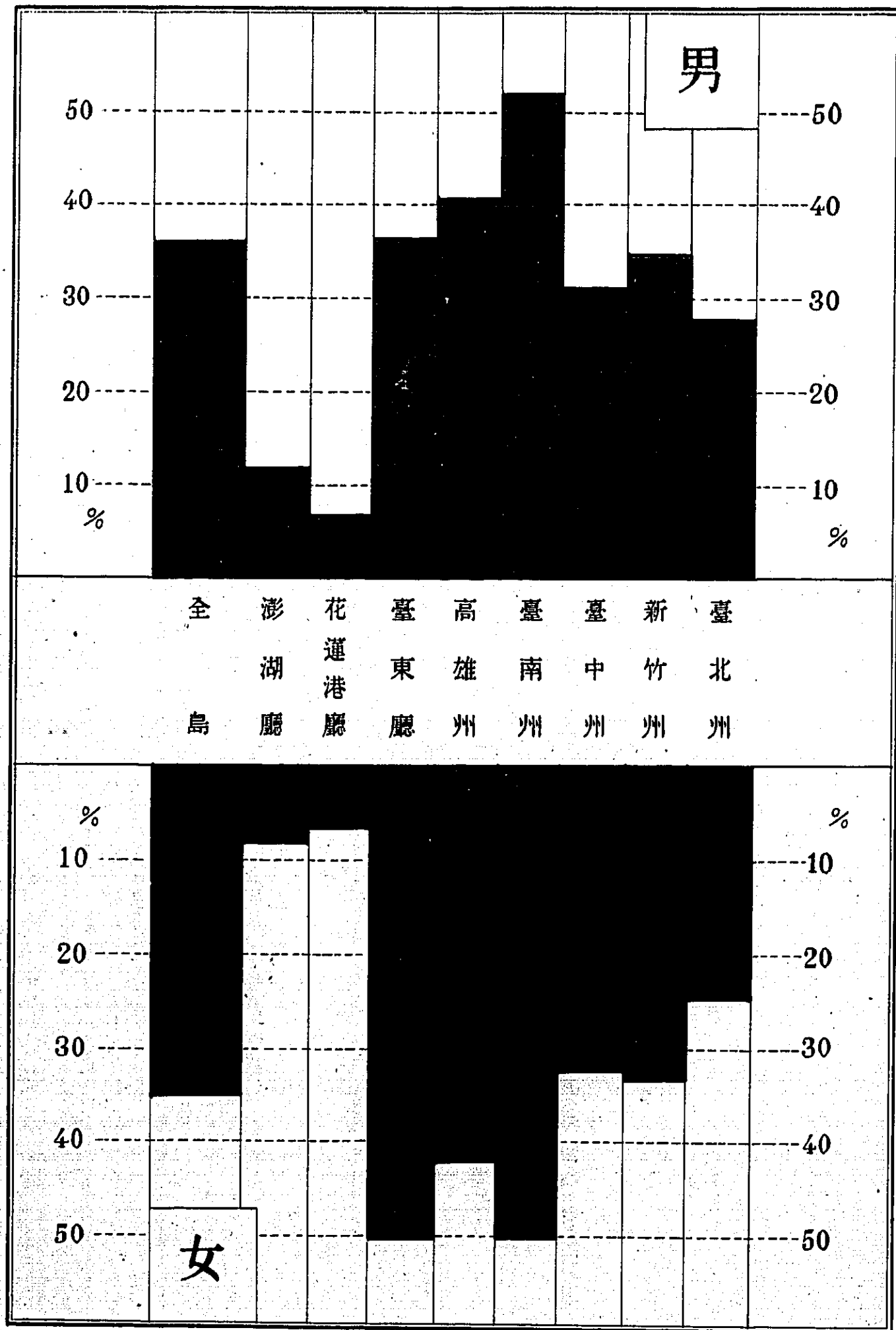
其 他



第四圖

トラホーム患者(人口百中)

第五圖



保健衛生實地調査報告書第二卷疾病篇

第一總說

人は病の器であるを謂はれてゐるが、さて病とは何ぞ、身體を中心としてその生理的常態と些少でも變つた生活作用を惹起した場合を謂ふのである。而して民族保健の向上、疾病罹患の低減にはこの疾病の状態を的確に精査研究して、その因果關係を検討し、合理的に人體の健康を保全し増進せしめ、かつ永續せしむる對策を講せねばならぬ。

從來、個人を對象とした治療醫學であつたが、晩近は住民の集團を渾一して、茲に現出するところの疾病を攷究して、その原因を探り、結果を索め、所謂因果律に立脚して、その疾病を未然に豫防するの方策を取るに至つたのである、これ即ち社會醫學の發達であるのである。

遮莫、疾病の分量的調査に關しては種々の困難が伴ふからして、斯の種の調査は纔かにある社會ある特殊の團體に限られたものである。彼の有名なるライブチツヒの罹病統計、ベツランコーラエルの罹病推算率、マイエットの罹病表なども或る一部の階級者の調査に限られてゐるから、是を以て一般を律することが出来なかつた。

我が保健衛生實地調査は、この意義より住民の疾病に重きを措いたから、本調査の大半は疾病調査であつたのである。而かも本調査は本島に於ける住民健康調査の嚆矢であり、又唯一無比の資料と言ふべきものである。但し本篇は主として各州に於ける保健調査第一回乃至第五回の綜合的編整

であるから、凡て衛生状態の不良なる部落に屬してゐるから、従つて疾病比率に若干高き傾向のあ
 ることは否むことが出来ない、更に調査終了の第六回以降の分と、現在調査しつゝある衛生状況の
 良好なる部落の編輯とに俟つて完璧を期したい、さすれば調査に關する習練も積み、又良否部落の
 對照も出來、一層本調査の趣旨に副ふ譯である。則ち本篇は本島の衛生状態不良地區に於ける疾病
 統計で、かつ暫定的のものである。

疾病には長短緩急があつて最急性、急性、亞急性、慢性等に區別せられる、即ち一刻を争ふ最急
 性、兩三日間の急性、一二週間の亞急性、一箇月以上數年に跨る慢性的の多種多様に分れる。又症
 状にも千差萬別の輕重があつて、病の輕微なるものは寧ろ疾病と見做さざる方が却つて妥當な様
 なものもある、即ち寄生蟲の輕きものなどは糞便検査に依ると、明かに蟲卵を検出し得るが、本人に
 は別段の痛痒もなく従つて疾病であるとも考へないし、又輕微なトラホームなども専門の醫師から
 見れば立派な疾患ではあるが、これとて當人は一向平氣である、斯かる状態であるから本篇には統
 一を圖る上から、たとへ重症でも腸内寄生蟲病、トラホーム、齧齒の三種は一般疾病から除外して
 別に編整することとしたのである。

疾病は年齢に依て差異あるが如く、季節に依りて至大の影響を承ける、本調査は各州廳の分を綜
 合して見ると、殆ど全年を閲してあり、又其の診斷期間も永きは三箇月に亘つてゐるから、疾病状
 況の偏差は先づ無いものと見ることが出来る。

第二 疾病率

本編に集輯したる保健調査施行地及び検査人員を掲ぐれば左の如くである。

□保健調査施行地と其の人口

回次	施行地	人口	回次	施行地	人口
1 臺 北 州					
一	七星郡士林庄士林	三、三三四	四	宜蘭郡礁溪庄の内	三、〇九七
二	基隆郡金山庄の内	二、二二九	五	新莊郡鷺洲庄の内	三、五三四
三	文山郡深坑庄の内	一、六二二			
2 新 竹 州					
回次	施行地	人口	回次	施行地	人口
一	新竹市の内	二、〇〇三	四	苗栗郡苑裡庄の内	二、七八四
二	竹南郡南庄字南庄	一、一九五	五	竹東郡北埔庄北埔	二、七四二
三	中壢郡楊梅庄の内	二、四〇四			
3 臺 中 州					
回次	施行地	人口	回次	施行地	人口
一	大甲郡沙鹿庄の内	二、〇一五	四	彰化郡芬園庄の内	三、八九五
二	北斗郡北斗街の内	一、三九一	五	大甲郡大安庄の内	二、六八一
三	大屯郡霧峰庄柳樹莊	一、四一七			
4 臺 南 州					
回次	施行地	人口	回次	施行地	人口
一	新化郡新市庄の内	五、七六四	四	嘉義郡中埔庄の内	二、一〇一
二	新營郡後壁庄の内	五、三一一	五	嘉義郡水上庄の内	二、九六九
三	北門郡佳里庄佳里	四、〇八五			

5 高雄州		人口	同次	人口
同次	施行地	高雄市三塊厝	人口	二、〇七五
一		鳳山郡小港庄藺藪脚	人口	八八五
二		岡山郡彌陀庄赤塚	人口	二、四六七
三				
6 臺東廳		人口	同次	人口
同次	施行地		施行地	屏東郡長興庄麟洛
一		臺東支廳臺東街の内	人口	三、八三三
二		同里壠支廳卑南區の内	人口	一、八二四
三		同鹿野支廳鹿野區の内	人口	
四		同大武支廳太麻里區の内	人口	
7 花蓮港廳		人口	同次	人口
同次	施行地		施行地	屏東郡長興庄麟洛
一		〔花蓮港支廳吉野區吉野村 同平野區の内〕	人口	二、二六一
二		花蓮港支廳壽區の内	人口	三、一七八
8 澎湖廳		人口	同次	人口
同次	施行地		施行地	屏東郡長興庄麟洛
一		馬公支廳湖西庄の内	人口	三、八一〇
二			人口	
三			人口	
計			計	一一、二九
新	北	男	女	計
竹	州	六、五一七	六、三四九	一二、八六六
州		五、〇三三	五、五三八	一〇、五六一

更に検査人員を體性に區分すると。

臺中州	五、六二七	五、五〇二	一一、一二九
臺南州	九、九一〇	九、四一四	一九、三二四
高雄州	四、五一三	四、三九二	八、九〇五
臺東廳	二、七八三	二、八七四	五、六五七
花蓮港廳	二、六八二	二、七〇七	五、三八九
澎湖廳	一、三九五	一、七八五	三、一八〇
計	三八、四五〇	三八、五六一	七七、〇一一

以上の七七〇一人にして、内何等かの疾病を有するものは無慮二七、四九四人を算し、検査人員千中三五七人の患者となる割合である。つまり住民の三割六分即ち約三人毎に一人の患者を有することになり、而かも除外したるトラホーム、寄生蟲、齧齒等を編入して之を考察するとき、殆ど百パーセントの疾病率を現出すべき状態である。

〔内地との比較〕内地の疾病調査は、内務省に於て直接調査せる三箇村(奈良縣筒井村、愛媛縣清水村、佐賀縣佐留志村)と、其の他各府縣に於て調査したる六十八箇村、計七十一箇村の成績であつて、その検査人員は一三八、四六一人(内務省調査五、五二二人、地方廳調査一三二、九五〇人)である、その内健康に障害ある疾病(本島との對比上トラホーム、寄生蟲病、齧齒の三疾患を除く)を有する者は三八、八二一人であるから人口千につき二八〇四人となり、本島三五七を比して七七の低位である。即ち島民は内地農村民に較べ二割強の罹患率を負荷せられ憐まされてゐる譯である。

1 體性別差異

疾患者を男女に分けると男一五、七四七人、女一、七四七人であつて、女百につき男百三十四人である、之を検査人員に對する疾病率(人口千につき)を算出すると男四〇九五、女三〇四六人で、男

は一〇四九人の超過である。蓋し男の罹患率高きは一般死亡率の男の高きに徴しても首肯し得らるる事象である。即ち最近三箇年間に於ける本島人の死亡率を一瞥すると

□最近三箇年間に於ける本島人死亡率（人口千につき）

年	男	女	平均
昭和三年	二二・六	二二・七	二二・七
同 二年	二四・〇	二二・七	二二・九
同 元年	二四・四	二二・七	二二・一

であつて、逐歳比率の遞下を見るの好況を呈してゐるが、男の比率は女に比して各年千分の二内外の高位である。

〔内地との比較〕内地に於ける患者男は二〇、〇七三人、女一八、七四八人で、女百につき男一〇七人であつて、我が島民に對比すると男女間の較差が近逼してゐる、元來人口構成の上に男は女よりも迥に多數であるから、從て疾病絶對數も亦多數であると言ふ見方もあるから、疾病者の比率を算出して見ると、矢張り男二九・二%で女の二六・八七%より二三・五%高いのである。之を本島人に在りては低位である女と、内地に在りては高率である男とを比照するも、尙ほ千分の十二だけ島民はまだ高いのである。

2 地理的差異

健康は地理的環境に支配せらるゝと謂はれてゐるが、本篇の結果に因ると其の歸趨が比較的模糊である。今、疾病分布の状態を州廳別に分けて見ると、最高なるは臺中州の九六一・七%にして全島平均位の約三倍に上り、本島中部が最も患者の濃厚地區と見らるゝことになるが、實際は各州下に

於ける不健康地を調査したる關係上、寧ろ調査地の健康程度に支配せられてゐるから、從つて行政地域別に健否を速断することは妥當でないことも明かる。

この見地からでも調査地に於ける偏差を相殺する上から第六回以降の本調査成績を可及的忽卒に編整する要があるのである。次で臺東廳の六五四・八%及び臺南州の四一九・五%之に亞いてゐる、如上二州一廳に限り全島平均位よりも高率に屬するのである。翻つて疾病率の低きは花蓮港廳の二七・五%にして全島平均の十分一に達しない、之は主として蕃人の居住部落であるから、身體検査當日は季節的關係等でマラリアなどの風土病が發作しなければ、比較的健者として取扱はれた爲でもあらう、之等は上述の如き少數觀察の弊である、亞いて澎湖廳六一・三%、臺北州九六・二%など低位に屬する、而して臺北州低率の一因は第一、二回の調査に於て詳細なる製表を省略したものがあつた影響でもあつた。

□疾病率の順位に依る地方廳

州廳	住民千人中	州廳	住民千人中
1 臺中州	九六一・七	5 高雄州	一六五・一
2 臺東廳	六五四・八	6 臺北州	七〇・八
3 臺南州	四一九・五	7 澎湖廳	六一・三
4 新竹州	三五七・〇	8 花蓮港廳	二七・五
	二二・七		

3 年齢別に依る差異

死亡統計を細くまでもなく、乳幼児に死亡率高きはその所にして、そは身體の充實せざるため生活力の脆弱なる結果内因、外因の僅微なる缺陷も直に影響するからである、乳兒級にありても生後

餘日なき者は高率であるべき譯である。其の反面乳幼児級にありては、死の源泉たる疾病の夥多なるはこれまた當然であらねばならぬ。

今、年齢に依る疾病の多寡を正確に知らんが爲め、各年令級検査人員千につき各年令級疾病の割合を見るに五歳乃至九歳間が最も高潮期である、そは生後四歳迄は多く死の轉歸を見たる後であるから、比較的 low rate を現したに過ぎない。而して平均疾病率(三五七)より高きは五歳以上十四歳迄と三十歳以上五十四歳迄の階級であつて、五十五歳を経過すると又遞次其の比率を下ける、之は長壽を保つ者は多く健康だからであらう。この關係を曲線で示すと二山、二谷を描くことになる、而かも疾病對年齢の問題は、一定年齢に於て警戒すべき疾病を知るのであるから、保健衛生上重要なものである。

(年齢と體性) 年齢別疾病は男女とも、其の傾向を一にするが、最多は男にありては十歳から十四歳級、女にありては五歳より九歳級である。而して男は二十歳以上二十九歳迄と五十五歳以上が低率である。又女は男より體位の充實が早期であるから五歳早く十五歳以上三十四歳迄と、七十歳以上は著しく低率を呈する。

次に年齢別疾病に關する、實數竝に調査人員に對する比率を體性別に掲記して、詳述を略することとした。

□ 年齢別疾病

年齢	實數		人口千につき	
	男	女	男	女
平均				

疾病總數	實數		人口千につき	
	男	女	男	女
〇歳—四歳	15,172	11,718	15,172	11,718
五歳—九歳	18,172	11,718	18,172	11,718
一〇歳—一四歳	13,172	11,718	13,172	11,718
一五歳—一九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
二〇歳—二四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
二五歳—二九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
三〇歳—三四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
三五歳—三九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
四〇歳—四四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
四五歳—四九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
五〇歳—五四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
五五歳—五九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
六〇歳—六四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
六五歳—六九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
七〇歳—七四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
七五歳—七九歳	11,172	11,718	11,172	11,718
八〇歳—八四歳	11,172	11,718	11,172	11,718
八五歳—	11,172	11,718	11,172	11,718

第三 病類別觀察

疾病現象たる病名を大正十三年内閣訓令に據る、死因及び疾病分類に迎合するように類別を試みるに、實に千種萬態であつて、名稱の異なるも病因の同一なるものあり、又病名として肯し難きものなどあつたが、夫等は暫く其儘に細分する方法を採りて之を蒐録した。

如何なる病氣が住民の間、特に本島衛生状況の不良部落に分布せられてゐるか、其の量的數字を先づ觀察せむとするものである。今疾病の大分類に據りて、其の實數並に其の比率を甄別すること

□ 疾病大分類

病類	實數	疾病率(人口千)
1 流行病、地方病及傳染病	三、四一八	四四・三八
2 全身病	一六、二〇〇	二一〇・三六
3 神経系及感覺器の疾患	一、四〇七	一八・二七
4 血行器の疾患	七三五	九・五四
5 呼吸器の疾患	一、七三七	二二・五六
6 消化器の疾患	一、一七一	一五・二一
7 泌尿生殖器の疾患	四三	〇・五六
8 皮膚及皮下組織の疾患	二、七三三	三五・二三
9 骨及運動器の疾患	四五	〇・五八
10 畸形	九	〇・一一
11 幼児の疾患	一	〇・〇一
12 外國に依る疾患	一五	〇・一九

上表に掲げたように、全身病が最多で總疾患の半數強を占め五九%を示してゐる、之に亞で流行病、地方病及傳染病の一割二分強、皮膚及皮下組織の疾患の約一割等であつて、以上を本島の三大疾患と謂へ得る、呼吸器、神経系並に感覺器、消化器の疾患は合一しても一割五分強に過ぎない、又血行器や泌尿、生殖器の疾患は極めて少數である。而して全身病の多數なるは脾腫患者の影響にして、又泌尿生殖器の寡少するは多くは外部に露はれたる症狀に因りて單に問診したる結果に過ぎないからである。

〔體性に依り偏在したる疾患〕本調査に於ては男又は女のみ限りて認められた疾患が、可なりに多數であつた。泌尿生殖器を除くも男のみに偏在したのは癩癩、顔面神経麻痺、結核性淋巴腺腫等にして、又女に限りて認められたる、主なる疾患はバセドウ氏病等であつた。

〔女を多數とする疾患〕男を凌駕する女の疾患は數十種に上りたるも、就中著名なるは

病名	實數		各性百中	
	男	女	男	女
甲狀腺腫	五五	九〇六	五・七七	九四・三
脂肪過多	一一	一一二	七・七七	九二・三
眼瞼炎	六六	一四	三〇・〇	七〇・〇
視力障礙	四八	八四	三六・四	六三・六
慢性氣管支炎	三七	四四	一四・五	二〇・六
腸加答兒	一四	一七	四・五	四・五
疥癬	一四	二〇六	四・一	四一・三
				五八・七

等である。

〔疾病と地方〕地理的關係と體性とは疾病率に影響を與ふることが甚大である。左に各州廳並に男女別に表章して、疾病の分布状態を示すこととする。

□ 體性別疾病(實數)

種別	検査人員	疾病											
		總流病	全行病	神經系	血行器	呼吸器	消化器	泌尿器	皮膚	骨及運動器	畸形	幼児	外國
全島	六、四〇〇	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
臺北州	六、五七三	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
新竹州	五、〇〇〇	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
臺中州	五、〇〇〇	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
臺南州	四、九三〇	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
高雄州	四、五七三	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
臺東廳	二、七三三	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
花蓮港廳	二、七三三	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五
澎湖廳	一、五七三	一、五七三	一、九三〇	一、四〇七	七三五	一、七三七	一、一七一	四三	二、七三三	四五	九	一	一五

検査人員	流行病地方病数	全病及感染症	神経系及感覚器の疾患	血行器の疾患	呼吸器の疾患	消化器の疾患	泌尿生殖器の疾患	皮膚及皮下組織の疾患	骨及運動器の疾患	外因に依る疾患	婦人の疾患	小児の疾患	外因に依る疾患
一六三	二七三	一八八	七三三	三三三	六三三	四二七	二八	七二	一七	二二	八	一	二
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

□ 體性別疾病 (人口千に付)

疾病	全島	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳
總患病者	四〇五	八八八	一〇五六	一三六三	四二五	一五九	二六六	二七	五七
流行病地方病傳染病	三〇七	二八	三二	一七	六	三	六	一	一
全身病	一六六	一〇七	一四九	一九九	六九	二五	七〇	一	一
神経系及感覚器の疾患	三三三	一一七	三九	九一	三三	一七	三〇	一	一
血行器の疾患	四二七	二二八	六二	一八四	三二	一七	六八	一	一
呼吸器の疾患	六三三	三〇三	八二	一八	一〇	一〇	一〇	一	一
消化器の疾患	四二七	一八	二二	四	一	一	一	一	一
泌尿生殖器の疾患	二八	一〇	一	一	一	一	一	一	一
皮膚及皮下組織の疾患	七二	三	一	一	一	一	一	一	一
骨及運動器の疾患	一七	一	一	一	一	一	一	一	一
外因に依る疾患	二二	一	一	一	一	一	一	一	一

検査人員	流行病地方病及傳染病	全身病	神経系及感覚器の疾患	血行器の疾患	呼吸器の疾患	消化器の疾患	泌尿生殖器の疾患	皮膚及皮下組織の疾患	骨及運動器の疾患	外因に依る疾患	婦人の疾患	小児の疾患	外因に依る疾患
一六三	二七三	一八八	七三三	三三三	六三三	四二七	二八	七二	一七	二二	八	一	二
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一六	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

〔疾病と年齢〕年齢に依りて疾病に異同あるは贅言を要せざるところである、即ち年齢の幼老は性別と相俟つて、疾病の感受性を左右するからである。

今大分類に依る疾病を體性、年齢別に表章し達觀の資に供せむとするに、次表の如くである。

□ 年齢別疾病

年齡	總數	流行病及傳染	全身病	神經系及感覺器病	血行器病	呼吸器病	消化器病	泌尿器病	皮膚及皮下組織病	動骨器及病	其他
三〇歲—三四歲	117	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三五歲—三九歲	108	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四〇歲—四四歲	110	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四五歲—四九歲	112	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五〇歲—五四歲	114	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五五歲—五九歲	116	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六〇歲—六四歲	118	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六五歲—六九歲	120	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

年齡	總數	流行病及傳染	全身病	神經系及感覺器病	血行器病	呼吸器病	消化器病	泌尿器病	皮膚及皮下組織病	動骨器及病	其他
〇歲—四歲	121	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五歲—九歲	122	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一〇歲—一四歲	123	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一五歲—一九歲	124	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二〇歲—二四歲	125	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二五歲—二九歲	126	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1